

	理工学部建築学科
DP	<p>建築学科は、本学立学の精神と本学科人材養成目的に基づき、以下の要件;①、②、③を満たす学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>①幅広い教養と語学力を身につけ、それらに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって社会の発展に貢献する意志と、それを実現するための能力を有する。</p> <p>②建築分野に必要な工学の基礎知識と芸術の感性を身につけ、居住性・安全性・審美性・環境調和性を重視した空間創造の基本的能力を有する。</p> <p>③生涯にわたり主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。</p>
CP	<p>建築学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけさせるため、教養教育と専門教育より構成される教育課程を編成します。二つの分野において一定数以上の単位の修得を義務付け、建築学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるための幅広い学修を求めます。</p> <p>①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。</p> <p>②専門教育では、基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。講義科目と、それに関連する設計・演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、建築学の各専門分野に関する基礎知識と芸術の感性を身につけることができるようにする。また、各学生の適性や将来の進路に応じて、必要な分野の専門知識を深めるとともに、卒業後に取得が望ましい国家資格に対応できる十分な基礎力を修得できるようにする。</p> <p>③教養教育と専門教育を通して、能動的学修の要素を取り入れた教育を用意すると共に、設計・演習・実験・実習科目により、さまざまな課題に対する解決力・応用力を養う。卒業研究・卒業制作等では、自主性やコミュニケーション能力を養い、一級建築士等の技術者として生涯にわたり活かすことのできる総合的学修と創造的思考力が培われるようにする。</p> <p>④シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。学生個別の成績表にもそれを記載して学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。</p>
AP	<p>建築学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受入れます。</p> <p>①大学での学修の基礎となる高等学校教育の内容を堅実に修得し、建築学の専門分野を学ぶために必要な数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。</p> <p>②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。</p> <p>③建築学科が重視する居住性・安全性・審美性・環境調和性を重視した空間創造に興味を持ち、主体性を持って多様な人々と協力して、建築技術者として社会貢献する意欲を有する。</p>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>卒業研究については、学科が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、学科レベルでは、その集計値で評価する。</p>